

ノロウイルス流行中

ノロウイルスなどの感染性胃腸炎の流行が広がっています。
国立感染症研究所が12月20日に発表した患者報告数では、13都県が
警報基準値(定点あたり20名)を越えています。

感染経路

- ① 患者のふん便や嘔吐物から**人の手**などを介しての**二次感染**
- ② ヒト同士が接触する機会の多いところでの**ヒトからヒトへの飛沫感染・直接感染**
- ③ 汚染された**二枚貝**を、**生**あるいは**十分な加熱(85℃以上で1分間以上)**をしないで**食べた**場合

ノロウイルスは1年を通して発生が見られますが、
ピークは12月～翌年1月という傾向があります。

対策

■ 手洗いの徹底

- 調理作業開始前
- トイレに行った後
- 食事や休憩の後
- 生肉、魚介類など生ものを取り扱った後
- 下処理から調理工程に作業が移る時
- 加熱調理されずに提供・喫食される食品(サラダ・和え物・刺身等)の調理、盛り付け作業前

※逆性石けん自体にノロウイルスを直接不活性化する効果はありません。

【手の脂肪等の汚れを落とす⇒ウイルスが手指から剥がれやすくなる】効果が有ります。

■ 調理台や調理用具の殺菌

※ エタノールや逆性石けんはあまり効果がありません ※

有効な消毒方法

①熱湯(85℃以上)で1分以上の加熱

まな板・包丁・へら・食器やふきん・
タオル等は、熱湯消毒が適しています。



②次亜塩素酸ナトリウム溶液(0.02% 200ppm)に10分以上の浸漬

調理器具等は、洗剤等で十分洗浄した後この溶液に
浸すように拭くことが有効です。

200ppm(原液濃度12%)の簡単な作り方
2ℓのペットボトルへ原液5ml(キャップ1杯分)
と、水を2ℓ入れる



【次亜塩素酸ナトリウムを扱うときの注意点】

- ・十分な換気
- ・金属への使用(水で洗浄、もしくは拭き取る)
- ・身体への付着(特に目に入ったら流水ですすぎ、病院へ)
- ・ビニール手袋の着用
- ・酸性物との混入

衛生管理で注意すべき点

下痢やおう吐、風邪のような症状がある場合は担当責任者にその旨を伝えましょう。(二次感染予防)
症状がなくなっても**1週間～1ヶ月程度**ウイルスの排泄が続くことがあります。(個人差有り)
症状改善後も、しばらくは衛生的な現場や食品を直接取り扱う作業はしないほうが良いと思われます。

弊社での検査方法：**RT-PCR法**

遺伝子増幅を利用した検査で、結果が得られるまで**2～5時間**を要します。
感度が高く、ウイルスが1gあたり10～1万個あれば陽性となります。

※イムノクロマト法による、簡易的な検査も行っております。

検査方法や検査用の容器は、腸内細菌検査と全く異なります。

ご連絡いただければ、迅速に対応いたします。

採取した検体は、冷凍保管をお願いいたします。

株式
会社

九州保健ラボラトリー

Kyushu Hoken Laboratory

<http://www.kyuhoh.co.jp/>